毎月、新聞をつくりながら「お母さん」を感じ、学んでいます

お母さん業界新聞　南アルプスゆるりん母ゴコロ版
編集長　河口緩美

2014年5月に創刊して、もうすぐ2年になります。「お母さん業界新聞」との出会いは福岡県久留米市。毎月子育て広場でもらってきては楽しみに読んでいました。その後、夫の転勤で地元へ帰り、出会いから6年後、これは伝えなくては！私ももっとでっかい母ちゃんになりたい！と、山梨で動き始めました。

私はフツーのお母さんです。最初は一人で伝えていくのも難しく、心細く、自身の足りなさと向き合うことにもなり、ただただ新聞を読んでくださいと渡すだけでした。しかし動いていくにつれ、いろんな子育て支援がある中で、基本のキである「お母さんの心を感じる」この「お母さん業界新聞」の意味の大きさを確信していきました。

講演会、乾杯イベント、ファミリーフェスタへの参加…フツーのお母さんが一歩踏み出し、いろいろな経験をさせていただきました。お母さん大学の仲間、時に応援や協力をしてくれる地域の方々。このつながりやあたたかさこそが、今の子育てに足りないといわれているところ。一歩踏み出したことで、とても大切なことに気づかされました。

私は今、「お母さん」を感じながら、人や地域とつながり、たくさんの学びを得ています。社会の問題とされている子どもの育ちに関すること（いじめや虐待、引きこもり、貧困など）や生きづらさも、身近に感じています。新聞やお母さん大学を通して「お母さん」を感じること、子どもから学ぶ視点を得ることは、子育てや生き方の原点ともいえる学びです。

お母さん自身が感じること、気づいていくこと、学んでいくこと、意識していくこと、が大切であり、「お母さんはスゴイ！」を伝えることで、多くのお母さんを笑顔にすることができると自負しています。

私も子育て＝自分育て中。時々いっぱいいっぱいになることもありながら、それでもペンを持っている理由…。地域版は大切な子どもの記録であり、私を振り返る月1のレポートだからです。

これからも「お母さんがお母さんを感じること」を常に心の中心に置いて、地域版をつくっていきたいと思います。

伊勢戸由紀の
発見！地球の子たち　Vol.25

いせとゆき●にんじんCLUB代表。「畑と台所をつなぐ」をコンセプトに、有機野菜の宅配ほか、レストランを経営。農業体験などさまざまな情報を発信。http://www.ninjinclub.co.jp/
■本社：愛知県小牧市中央2-246　TEL0568-71-4114
■新鮮多菜 カフェ＆レストラン にんじん　TEL052-629-7271
愛知県名古屋市緑区南大高2-204 南生協病院敷地内
■Cafe & Curry さいさい　TEL090-1416-1573
愛知県名古屋市緑区南大高2-701 よってって横丁1階

1周年を迎えた「Cafe & Curry さいさい」
カレーを食べながら、楽しんでほしい、カレー談義、子育て談義

3月に「愛あるホンネ部」さんと同窓会を実施した。「愛あるホンネ部」とは、1年以上前に「Cafe & Curry さいさい」のお子さまカレーのメニューを一緒に考えた主婦チームだが、今回のオープン1周年記念に際し、主宰者の木村まいさんが参集を呼びかけ、4人のメンバーが集まった。

さっそく冬の人気メニュー「さいさい味噌カレー」を注文。野菜ベースのカレーに赤味噌を入れてコクを出した一品は、「ごはんが進み、揚げ野菜もさらに美味しく感じる」と好評でうれしかった。

さいさいで子連れの主婦たちがカレーについて談義する…このシーンこそが、企画当初から思い描いていたお店のイメージだった。開店1年目にして、それが実現できていることに感動を覚えた。私は主婦ではないが、ホンネ部員さんとの会話はとても楽しく、皆さんの近況とともに、さいさいの1年間の振り返りを共有するあっという間の時間であった。

中でも、ある部員さんが語ってくれた「子どもの頃、好き嫌いがあって、親や教師から食べなさいと言わるたびに悲しくて、結局食べられなかった」というエピソードに、なるほどという気づきをいただいた。

「食べることは生きること」。だが、何を食べるかという大人目線の義務感は子どもには通用しない。食べるときは、何を食べるかより、子どもと楽しく食べることのほうが大切なのだと、改めて思う。

さいさいのお子さまカレー「ぱくぱくカレー」は、お母さんとお子さんに楽しんでもらえるカレーになっているかどうか？　再度確認したいなぁと思っていた矢先、2組の親子がぱくぱくカレーを注文している場面に出くわした。

カレーが出てきた途端、子どもたちは目を輝かせ、お母さんは「○○ちゃん、美味しそうね～」「美味しいよ～、いっぱい食べようね～」と明るい声を発した。よかった、よかった。カレーを前に、お子さんもニコニコ。と同時に、やっぱりお母さんの笑顔が子どもにとって最高のごちそうなんだなぁと感じる。

この店は、愛あるホンネ部員から、来店した親子が安心して楽しく食べられるカレー屋さんを目指してほしいと、託された店だ。これからも、お母さんの笑顔にたくさん出会える「Cafe & Curry さいさい」であるよう、スタッフとともに進んでいこう。

さいさいのお子さまカレー「ぱくぱくカレー」

マザージャーナリスト
宇賀佐智子の
大阪の食 関西食文化研究会とは

2009年に発足した関西食文化研究会は、「料理人を中心に、それに係わる人々の交流を通して、関西の食文化を深耕し、同時に関西の飲食業界を活性化すること」を目的とし、関西の食に関わるあらゆる方面の人たちが集い、学ぶ場を提供している。

入会資格は「食に関係する仕事に従事する者」。「お母さん業界新聞」の連載「大阪の食」担当記者として在籍している私は、3月6日、三重県とのコラボイベント「食の円卓会議～三重の豊かな『食』を考える」に参加した。

栄養学の大学教授やホテルのシェフなど、さまざまな方々が集まっていた。普段は滅多に出会えない人たちと語り合い、思いや情報を共有するこうした機会。ネット社会の今だからこそ、より大切な場といえるだろう。

自分のテリトリーから一歩外へ出ることで多面的な意見や発想にも出会え、それと同時に、食への志を持った者同士がつながることで生まれる大きなエネルギーを感じる。

全国から注目される関西の食、内からの波を、より大きなうねりとして全国に返す使命があるようだ。

研究会のホームページには「料理人による料理人のための情報発信・交流サイト」とあり、イベントや料理人などさまざまな情報が紹介されている。生産者に聞く旬の話「食材研究」ではつくり手の熱い思いにふれることができ、「料理人が刺激を受けた味・技・人」は読み応えがある。

プロの料理人ではないが、「家庭の食」を守り育むという大切な役割を担っているお母さん。情報のいいとこどりはお手のもの。ぜひのぞいてみてください。

三重県の食材を使った料理のデモンストレーションと試食が行われた。

フランス料理・神戸北野ホテル・山口浩氏「マイヤーレモンのチャツネをサンドしたさくらポークのカツレツ　波切節のパウダー」

中国料理・京　静華・宮本静夫氏「松阪牛オイスターソース炒め　ひじきご飯　ピリ辛なばな添え」

日本料理・柏屋・松尾英明氏「煮蛤の冷麦　三重県の食材と共に」

●関西食文化研究会
http://www.food-culture.jp/
コアメンバーは菊乃井3代目主人・村田吉弘氏、神戸北野ホテル総支配人・総料理長・山口浩氏、辻調理師専門学校中国料理主任教授・吉岡勝美氏、ポンテベッキオ・オーナーシェフ・山根大助氏、「あまから手帖」編集顧問・門上武司氏。

▲円卓会議では三重県知事鈴木英敬氏、文筆家の千種清美氏を迎え、生産者・行政・料理人・消費者と議論を展開。三重の豊かな食材を通しお伊勢さんの歴史にもふれた美味しい時間。

食材展示・仕入相談会は熱気にあふれた。

FM フジ後援
Heartful Talk message
ハートフル・トークメッセージ
家族と命 愛と絆

2名様5組読者プレゼント

5月5日（祝・木）　14：00（開場 13：30）
八王子市南大沢文化会館 交流ホール

FM フジで好評放送中のラジオ番組「愛・家族・人生・夢 ハートフル・メッセージ」がスタジオから飛び出して公開収録！胎内記憶の池川明先生が、赤ちゃんとママの絆と奇跡を解き明かします。齋藤律子さんのピアノ生演奏。50万人が涙した、感動のドキュメンタリー映画『うまれる』のメイキング映像を同時上映。命の大切さ、家族の愛と絆を、一緒に考えるイベントです。

プログラム
司会：片山タズ
1　齋藤律子さんによるピアノ演奏
2　映画『うまれる』メイキング DVD 上映
3　池川明先生によるお話
4　質問コーナー
　会場の皆様の質問に池川先生がお答えします。

齋藤律子 プロフィール
東京都出身。東京都立芸術高校、桐朋学園芸術短期大学卒業。第13回ベトロフピアノコンクール奨励賞ほか、多数受賞。ピアノソロ・伴奏ピアニストとして活動中。

胎内記憶の池川明が語る 家族のシンフォニー

池川 明 プロフィール
1954年東京都生まれ。帝京大学医学部・大学 院修了。医学博士。池川クリニック院長。1999年より「胎内記憶」に関する研究を開始。「胎内記憶」「経皮毒」テーマに講演会・セミナーの講師を務める。母と子の立場に立ったお産と医療を実践。

映画『うまれる』
50万人が涙した感動のドキュメンタリー映画。「子どもは親を選んで生まれてくる」という胎内記憶をモチーフに、4組の夫婦を通して、生まれてきた意味、家族との絆、命の大切さ、人との繋がりを考える作品です。公開から4年。『ずっと、いっしょ。』が完成し、2014年公開。「家族のつながり」をテーマに、さまざまな事情を抱える3家族を通して、生まれてきた意味、家族の絆、命の大切さ、幸せのあり方を考える作品です。

チケット前売1500円／当日1700円　問合せ／オフィス・ボイジャー　TEL03-6809-2894　http://www.heart-talk.club
チケットぴあ　http://ticket.pia.jp/pia/event.ds?eventCd=1613549　キッズルームの利用を希望されるは、事前にお問合せください。

※プレゼントのお申込みは、お母さん大学まで

爺（時事）川柳 ● 国民の名で独断のオピニオン（手塚俊孝）

子育て川柳 ● 幸せは さくら色した 絵の中に（八木橋真心）